

みんなで考える市町村合併

「市町村合併問題市民説明会」の質問概要

先に行われた2回目の市町村合併問題市民説明会に参加された皆さまから、さまざまな質問・ご意見をいただきました。その内容を要約してお知らせします。

Q 地域審議会の構成メンバーはどうなるのか。

A 地域審議会の設置は合意しています。委員の構成、人数などについては今後の協議となります。

Q 消防車の配置が、現在新潟市では二万人に一台、白根市では一万人に一台だと思ふ。新潟市に統一されると、消防車が来るのが遅くならないか。

A 新潟市と白根市では人口密度が違います。また消防車一台に対する面積では、新潟市は九平方キロメートルで一台、白根市では二十一平方キロメートルに一台となり、一概に判断はできません。合併で能力が下がることのないよう、人口密度や川、道路などの環境により総合的に判断され配置されると思います。

Q 合併により町名が重複した場合はどうなるのか。

A 詳しい内容は今後調整になります。新潟市は基本的に町名は変わりませんが、編入される市町村で町名の調整が行われます。

Q 今年から地域生活センターの管理が、一部の地区で地元管理に変わったが、合併後はどうなるのか。

A 十五年度から四地区で、管理運営委員会からセンターを管理してもらっています。

ています。新潟市は管理運営委員会が管理しています。合併しても、地域生活センターは、残す方向で考えています。

Q 白根市の公共交通機関は新潟交通のバスしかない。合併後、公共交通は良くなるのか。

A 白根市だけの問題ではなく、この地域全体の課題と認識しています。新しいまちを創っていくためにも、早急に取り組まなければならないと考えます。現在白根市では、公共交通活性化計画を市民策定委員会で検討しています。

Q 高校学区について、合併後どうなるのか聞かせてほしい。

A 県教育委員会が管轄している事項です。今後十二市町村の共通の課題として、県に要望していくことが確認されています。

Q 合併した場合には、現実に合った見直しをしていただきたいと思っています。

A 白根は県下有数の農産物の生産地だが、合併によって白根ポークや白根茶豆など、白根のついたブランド品がなくなるのではないかと。

A 黒埼町は新潟市に合併しましたが、黒埼茶豆としての名前は残っています。仮に白根市が新潟市になったとしても、白根ポーク、白根茶豆の名前は十分残っていくと思います。

Q 新潟市と合併したら、固定資産税はどうなるのか。

A 現在調整中です。新潟市も白根市も税率は同じ1・4%です。土地の評価が変わらない限り金額は同じと考えられます。

Q 新潟市と白根市で税金体系が違ふと思うが。

A 人口によって金額が決まる例があります。例えば市民税の均等割は、白根市は五万人未満なので二千元ですが、五万人以上では二千五百円、五十万人以上では三千円と定められています。

Q 合併した場合には、三千円に上がることにありますが、黒埼町の場合、三年間に限り経過措置として二千五百円としました。対応については今後協議されます。都市計画税の例では、白根市の場合、市街地の下水道整備に伴い、目的を持って課税していますが、新潟市では市街化区域があり、その対象に課税しています。なお白根市には市街化区域はありません。

Q 合併するかしないかは、どのように決定するのか。

A 合併協議の内容を住民の皆さまに説明した上で、アンケート調査等を実施します。その結果を参考にしながら議会と相談し、合併するかどうか決定したいと考えています。

■第2回市町村合併問題市民説明会参加人数

日 時	地域名	会 場	参加人数
4月7日(月)	新 飯 田	地域生活センター	45人
9日(水)	茨 曾 根	"	29人
10日(木)	小 瀬 林	"	26人
11日(金)	庄 瀬 根	"	80人
12日(土)	白 根 井 巻	白根学習館	118人
14日(月)	白 根 郷 岸	地域生活センター	35人
15日(火)	大 根 通	"	54人
16日(水)	大 根 通	"	13人
17日(木)	大 根 通	"	49人
18日(金)	大 根 通	"	78人
合 計			527人

市政 クリップ

夢と希望への第一歩

平成15年度成人式

五月三日、平成十五年度成人式が白根学習館で行われ、三百七十六人が出席しました。今年度成人を迎えたのは、昭和五十七年四月二日から昭和五十八年四月一日生まれの、男性三百十八人、女性三百人の計六百十八人。式典開始前の会場周辺では、この日を心待ちにしていたかのように、はしゃぐ、新成人たちの姿が見られました。

式典では、吉沢市長が「最近では依存から自立という言葉がキーワードとなっております。失敗を繰り返しながらでも、自分が良いと信じたことを実践し、悔いのないように頑張ってください」とエールを送りました。また新成人を代表して、新田歩さん(小林地区)が「就職して埼玉で働いている。初めての一人暮らしなど、いろいろ大変なことも多いが、社会人としての自覚をしっかりと持



ち、生きていきたい」、吉澤真菜美さん(庄瀬地区)が「親には普段なかなか言えないので、今日こそ、ありがとう、これからもよろしくと言いたい。人生後悔しないように努力することを誓います」と力強く成人を迎えてのあいさつをしました。式典に続きアトラクションとして、新潟を中心に活躍するお笑い集団「NAMARA」を司会に迎え、大抽選会が行われました。賞品として、「白根市長に「時間なれる券」二十枚の大風呂に自分の名前が入られる券」などが用意され、会場を大いに沸かせました。

成人式終了後、新成人たちは「着物が暑かったけれど楽しかった」「抽選会は盛り上がりすぎた」など成人式の感想や、「国家試験に合格したい」といった抱負を話してくれました。また付き添いで来場した家族は「今日を無事に迎えられるホッとしています。楽しそうに良かったです」と笑顔で話してくれました。



いけない」が上位を占めており、男女とも同様に決定権があると考えられていることが分かります。

逆に、「男性に決定権がある」という回答が多かったものは『農家組合(39%)』『町内会(35%)』『地域の祭りでの相談(42%)』でした。農家組合や町内会は、地域に密着した組織ですが、男性中心に物事が決められている様子が浮かび上がってきます。

自由意見には「女性が地域や市の会議などに進んで出席し、思うことを発言したほうがよい(60代男性)」といった、女性の社会参加を望む男性の声もありました。しかし、慣例的に男性だけが集まる場に女性が参加し、さらに意見を述べることは、とても難しいものです。女性が意思決定の機会にもっと参加するには、「積極的に社会に参加できるような女性を育成する環境整備(20代男性)」も必要でしょう。

国や県では、女性の意思決定機関への参画を進めるために、さまざまな施策を実施していますが、地域の中から女性も意思決定に参加できる機会を数多く生み出していくことが大事なことでないでしょうか。



決めるのは男性or女性?

前回の特別編では、昨年11月に行った市民意識調査結果「結婚や家庭生活について」をご紹介しました。今号は「団体や集会での決定権」についてご紹介します。

団体や集会で物事を決定する場合、女性に決定権があるかどうかを尋ねました。『趣味やスポーツのサークル』では、「平等」が53%、「どちらともいえない」が16%、『PTA』では「平等」が38%、「どちらともいえない」が16%、『地域子ども会の保護者の集まり』では「平等」が33%、「女性に決定権がある」が19%でした。

この3つの回答では「平等である」と「どちらとも

「おしゃべりさん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます (<http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp>)